

氏名： 市古 夏生 (ICHIKO Natsuo)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 教授
学位： 博士 (文学) (早稲田大学 1998)
専門分野： 日本近世文学 出版文化学 書誌学
E-mail： ichiko.natsuo@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

近世文学／仮名草子／浮世草／出版文化／原稿料

◆主要業績

・科学研究補助金・基盤 (B) 研究成果報告書『出版機構の進化と原稿料についての総合的研究』編

◆研究内容 / Research Pursuits

日本近世文学の中で 17 世紀を中心に研究を行っているが、ここ 2、3 年江戸時代初期の小説・随筆類の中で、写本で流通している書物を精査し、版本との相違や独自性、特色などを考察しつつある。

また近世文学は出版文化の開花した時代であり、文学環境の 1 つとして出版に関する究明が必要である。元禄時代に刊行されている「書籍目録」の諸本調査と収載書籍の基準などについて研究を進めており、『増益書籍目録大全』諸本調査に関して完成しつつある。

出版文化が開花してから起る現象として、作者・著者の権利、すなわち著作権の問題がある。著者への報酬 (原稿料・印税) がどのように推移し、どの程度の収入があるのか、文学者の経済的な基盤が確立する時期などに関する究明を行うため、科研費でプロジェクトを組んでいたが、その研究成果が研究報告書『出版機構の進化と原稿料についての総合的研究』である。

◆教育内容 / Educational Pursuits

日本近世文学に関して教育を行っている。文教育学部では、「日本古典文学史論」で近世小説の展開を作品を紹介しつつ、講義をしている。「日本古典文学論演習」では、語句や背景となる風俗を調査させて、近世小説の読み方を習得させる。20年度は前期に西鶴の門人北条団水の浮世草子『昼夜用心記』、後期に上田秋成の浮世草子『諸道聴耳世間猿』を対象とした。大学院では「日本近世出版文化特論」では、西鶴の『本朝二十不孝』巻3以降の挿絵と本文との関係、挿絵に描かれているものなどを読み解いた。「日本近世文学演習」では仮名草子時代の写本と版本の関係、写本から出版された作品の変容を考察した。

◆研究計画

- ① 18年度より3年間科学研究費補助金で「出版機構の進化と原稿料についての総合的研究」を6名の研究者とともに推進しており、近世から現代に至る作家の経済的自立に関する推移をまとめたが、さらに報酬と版権のデータの採集を有志で継続し、書物にして広く研究者が利用できるようにする。
- ② 近世前期の出版物の目録である「書籍目録」の諸本調査と、出版者別に出版書をリストにし、文学関係出版者の特色、文学書の位置づけなどを考察する。
- ③ それに合わせて共同研究として行われてきた近世前期の出版書年表の作成を試みる。
- ④ 写本と版本の混在する仮名草子に関して、メディアの視点から分析を進める。
- ⑤ 仮名草子から浮世草子にかけて、女性に対する表現を分析する。

◆メッセージ

現代から一番近い時代の古典文学、これが近世文学です。文体、語句なども近代以降に繋がるものなので、読み慣れると理解することが容易であると思います。

井原西鶴、曲亭馬琴などの書いた小説、松尾芭蕉の俳諧・奥の細道などはよく知られていますが、それ以外にも面白い怪異小説、遊里文学、滑稽小説などがたくさん残されています。

また文学作品を出版し始めたのが江戸時代です。出版になって作品はどのように変質したのか、出版に関わる規制の実態、作者と出版者との関係など興味は尽きません。近世文学の世界をぜひとも知っていただきたいと思います。